京城日報

即位大典

天高く氣清く、壽星南極に輝き、瑞祥東萊に充つる秋十一月、寶祚百二十有二代 今上陛下、畏くも御即位の大典を擧げさせ給ふ。眞に振古の盛儀なる哉。

○賢所御大前の儀（京都特電）

天皇陛下、萬世一系の皇位を繼承せられ給ひたる御事を 皇祖 皇宗に奉告せらるゝ賢所御大前の儀は、十日午前八時より御新營の春興殿に於て行はせられたり此の日前夜來の秋雨名殘なく霽れて秋天一碧、紫宸殿御苑の松は千古の翠を湛へ、樹々の梢錦繡の光を放ちて、瑞氣洛の內外に滿つ

御式の始まるを待つ

□御儀式場

御儀式場なる春興殿は早旦先づ簾、帳、壁代を更め內陣の中央に天皇陛下御拜の御座として短帖（三尺の疊）を敷き、其の御側には御劍御璽を奉安すべき案を安き奉りて諸設備全く整ふ、前庭に建てらるゝ大榊は高二十四尺、木口六寸、末口三寸九分の皮付檜材めの頂部に結び付けられ、之れに一方は鏡及び勾玉を、一方は劍を懸け、鏡は白銅製圓形にて徑八寸、玉は勾玉三十、九玉三十を一緖ぎとなし、劍は白鞘造にて及のなきものを錦襴の袋に入られたり

□百官參集

斯くて午前八時、紫宸殿の前承明門の外なる皇宮南門建禮門と東門の建春門とを開きて皇宮警部嚴然として之れを守護し、文武高官、優遇者並びに夫人外國交際官並に夫人、男子は白下衣袴の大禮服、正裝正服若くば通常禮服、女子は大禮服にて參入し、式部職、掌典部、樂部職員中、掌典長、掌典は束帶縫著、樂官其の他は衣冠單にて朝集所に參集せり次に各親王、各王殿下には宜陽殿より參入せられて、

□陛下出御

やがて天皇陛下には波多野宮內大臣、戶田式部長官の前行にて宜陽殿に渡御あらせられ、侍從は謹んで御束帶帛の御袍を奉る、帛の御袍は白き練平絹の御袍にして、下襲、單及び大口も白色の絹なりと拜す、陛下之れを著御遊ばさるゝや、侍從より御手水を供し御笏を奉る、此間に於て各宮殿下を始め奉り波多野宮內大臣、大山內大臣、鷹司侍從長、戶田式部長官、各侍從以下何れも束帶縫著帶劍に更めたり

□威儀堂々

此の間儀仗兵は建禮、建春二門の外に肅として整列せり、典儀官は卷纓を頭に冠り、赤の單に紅の大口を著し、其上に表袴を穿き、下襲半臂を著、標色の闕腋袍を纏著し、其の上に錦の裲襠を著し、更に錦の摺腰にて結び、緋の脛巾を穿ちて左右に三人宛分れ、南門の外なる左右の脇に著せり、嶮て御殿の南庭の左右に大焰臺に懸けたる鉦三個、同じく鼓三個を置かれおり、同じく典儀官左右一人宛大禮使判任官六人を率ゐて此の鉦鼓の前に著く、是れ即ち御儀式の御始めこ御終りこに當りて之れを三度宛打ち鳴らす役目を承れるものなり

次に威儀物と稱する典儀官は左右各々二十名宛、太刀、弓、胡簶、桙楯を捧持して同じく南庭の左右に分れて二列に整列せり、其の服裝は垂纓の冠に黑色の縫腋袍裝、大口、表袴を著し、靴を穿き、前列は兩面錦の蘰に納れたる太刀八口弓八張、次の列は赤地綾絹の蘰に納れたる壺胡簶八具を捧持し、次に桙八竿、次に楯八枚を捧持す、壺胡簶を捧持する者は、其の服裝太刀捧持者と同じけれども袍の色緋也、桙楯の捧持者は袍の色縹色也、次の典儀官は威儀の本位と稱して左右各十人前列後列に分れて南の階の下に著席せり、前列の服裝は卷纓緌の冠をつけ、黑色の闕腋袍を著、冑の形したる裲襠を著し、其の下に肩當あり錦の摺腰を結び、下具は單、大口表袴白布帶平緖に劍をつけ、平胡簶を負ひ、弓を持ちて韝を穿ち、後列者亦た大同小異にして只袍は緋色にして背に壺胡簶を負ふの差あり

□御神樂歌

如上の儀容設備全く整ひたれば、鉦鼓の本位にては、鉦と鼓を三たび擊ち鳴らせり、是れ即ち合圖なれば、朝集所に參列せる諸員は一齊に列立し、大禮使高官の案內にて南門より肅々として南庭東西の幄舍に入れり、斯くて愈々賢所御大前の儀は午前十時を以て始められたり、伶人係ろに神樂歌を奏す、樂は庭燎の曲と賢木の曲にて

庭燎の曲の歌詞

みやまにはあられふるらし外山なるまさきの蔓色つきにけり

賢木の曲の歌詞

賢木葉の香をかくはしみ認め來れは八十氏人そまゐせりける

同上

神垣の三室の山の賢木葉は神の御前に茂りあひけり

此の間掌典二名にて御扉を開き、神々しき神樂歌の斷えては又續く間に於て、折敷高杯に盛られたる神饌六臺と折櫃に納められたる神饌四十臺は幣物と同じく御本殿へ供へらる、やがて神樂歌の歇むと共に掌典長は恭しく祝詞を奏上しぬ

□天皇御拜

此の時天皇陛下には戶田式部長官と波多野宮內大臣の前行にて宜陽殿を出御あらせられ、侍從御劍御璽を奉じ、鷹司侍從長、內山侍從武官長左右に供奉し、續て東宮殿下を始め奉り各宮殿下、大隈內閣總理大臣、大山內大臣、鷹司大禮使長官供奉して參らす、陛下には徐かに內陣の御座に著御あらせられ、侍從御側の案上に御劍御璽を奉安して後、內陣に恭進あらせられ恭しく 天祖の大神靈に御拜禮あり、天日嗣の御位に即かせ給ふ由御告文を奏せられ給ひぬ

其の御儀の森嚴莊重なるは神代の御樣も偲ばれて殿上殿下の百官仰ぎ見る者だになし、やがて掌典三たび御鈴を鳴らすと共に 陛下には御座に復せられ給ひ、東宮殿下を始め奉り、各宮殿下の御拜禮ありたり

□御儀終る

陛下出御の御時と同じ供奉にて入御あらせらるゝや、次で諸員は南庭の御拜所に進みて拜禮し、再び神樂歌の奏樂起り、拜員幣物及び神饌を徹して御扉を閉ぢ、鉦と鼓とを三たび打ち鳴らして、茲に聖代の盛儀たる賢所御大前の儀は終らせられたり、時に午前十一時三十分

◎恩赦

十日官報號外を以て左の如く恩赦の詔書を發せられたり（東京特電）

詔書

朕大禮ヲ行フニ方リ普ク仁慈ヲ布キ以テ朕カ幸福ヲ分タムコトヲ念ヒ特ニ有司ニ命シテ恩赦ノコトヲ行ハシム爾有衆其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ

御名御璽

大正四年十一月十日

▲減刑の勅令

朕減刑ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

（各大臣副署）

大正四年十一月十日前、刑の言渡を受けたる者にして其執行前に係る者、刑の執行猶豫中執行中若くは執行停止中の者又は假出獄中の者は本令に依り其刑を減す但し其執行を免るゝ者は此限りに非す

一、死刑は之を無期懲役とす

二、無期懲役は之を有期懲役二十年とし無期禁錮は之を有期禁錮二十年とす

三、有期の懲役又は禁錮は左の例に依る

（イ）刑の執行を始めざる者に就ては刑期四分の一を減じたる者とす

（ロ）刑の執行を始めたる者に就ては殘刑期の二分の一を減じたる者とす但し此の執行刑期の二分の一に出ざるときは前項の例に依る

（ハ）舊刑法の刑は之に相當する刑法の刑に依り減刑す朝鮮臺灣又は關東州に行はるゝ法令の罪にして前項と罪の性質を同しうする者の刑を輕減す

▲懲戒懲罰免除

勅令

朕懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

（各大臣副署）

官吏又は官吏待遇者にして大正四年十一月十日前の所爲に就き懲戒又は懲罰の處分を受けたる者に對しては將來に向つて其懲戒又は懲罰を免除す未だ處分を受けざる者に對しては懲戒又は處罰を行はす

▲辨償責任免除

勅令

朕出納官吏辨償責任ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

（各大臣副署）

出納官吏の辨償責任に基く債務にして大正四年十一月十日前に於ける事由に依る者は將來に向つて之を免除す但し犯罪行爲に依る本人の債務は此の限りに非す

◎軍司令部の奉祝

朝鮮駐劄軍司令部にては午後三時構內に設けられたる式場に部員一同參集し古海軍參謀長勅諭を捧讀し終りて天皇陛下の萬歲を三唱し今日の大典を祝し奉りたり

◎大典記念禪堂建立計畫

京城妙心寺別院に於ては十日午前十時より嚴肅なる御大典祝聖祈禱會を擧行せるが右祝禱會終了後後藤老師は御大典記念事業として多年荒廢に歸せる朝鮮佛法の復活を圖る爲め禪堂建立の志望を發し來會の京城會々員諸氏は擧りて其趣意を翼賛し之れが期成に付き極力外護することゝなれり

◎御賑恤

朝鮮へ二十萬圓御下賜

今回御即位の大禮を擧げさせらるゝに方り 聖上陛下より御賑恤の資として內帑金百萬圓御下賜あらせられたり右の內朝鮮に頒賜さるべき金額は其の五分の一にして實に二十萬圓の巨額なり（東京特電）

□大典奉祝

大塊 野田卯太郎謹詠 日奈久温泉に於て

祥瑞無邊今日や神樂の大八島

旅中大典に遇ひ奉りて 心水 野田義夫謹詠

此日松植う山に寄す稻の波

馬夫に野菊騷さしめての萬歲や

南言北語

今日は吾人七千餘萬の同胞が忘るべからざる記念祝日である▲謹按するに三種の神器を皇祖の皇孫に賜ふや寶鏡は吾御魂の勅あり聖子神孫祇承恪奉して同床共殿の誂に遵ひ紹運承基の徵と爲し給ひしが▲祟神帝以て不安と爲し始めて寶鏡を大和に祀り▲垂仁帝に至りて伊勢に奉祀せられたのである之れ即ち神宮におはします▲後世祟神朝欽遣の寶鏡を宮中に奉祀して賢所と稱へ奉り▲歷代列聖特に祟敬の誠を致し給ふ▲當に猶吾を視るが如くなるべしとの神勅萬古炳然たり▲今日午前の賢所大前の御儀は乃ち之れに據り給ひ▲午後の御儀則ち紫宸殿の御盛儀に於て大詔を臣民に降し給ふ▲祭政一致の大法洵に古を稽へて今に參り世界無比の盛儀前に垂れさせ給ふ▲されば三十六峰瑞雲罩めて御苑の松風當に喜氣を騰げ上林の秋色自ら祥光動く▲今や我帝國は世界の列强に伍し國威內外に洽く帝國の臣民は地球上到る處にあり▲之等赤子が唱へし奉祝萬歲の聲は洵に地球を覆うて乾坤を動したのである聖壽萬歲萬々歲▲倫敦タイムスの特派員フレーザー君が鹵簿を拜觀して予の半生を通じて斯く華麗にして莊重な行列を拜した事はない▲殊に日本獨特の風習かと領かれスのは沿道の拜觀者が一人として出すものがなく靜肅を極めて居た事で▲外國では盛に拍手喝采して皇帝を迎へ奉るのであるが▲沈默は雄辯に勝るの例に漏れず斯く庶民の沈默なるを見ては予等外人は一層敬虔の念を深からしめたと▲もとより日本の國體は世界古今無比である▲八等の眞似の出來ない古今一貫した臣子の分は定まつて居る▲忠君愛國義勇奉公の國體の精華も皆茲に淵源するのである

奉祝

南滿洲鐵道株式會社

撫順炭

特約販賣所

京城南大門通一丁目

三國商會

電話長九〇〇番 西大門貯炭場電話一一八〇九番 振替口座京城一二〇六番

平壤代理店 平壤本町 平松商店 電話長一六一番

京城南大門通一丁目 西村商會 電話九二〇番

元山代理店 元山旭町 小泉商店 電話四五一番

三國商會各地代理店

開城大和町 岡本商店

水原驛前 坂手金三郎

同 城內 中島政吉

平澤驛前 石川耐藏

鳥致院驛前 朝鮮産業商會

淸州 同商會

公州旭町 高瀨卯作

裡里榮町 土車仁作

全州 同商店

江景中町 林龜助

鐵原 小宮山入郎

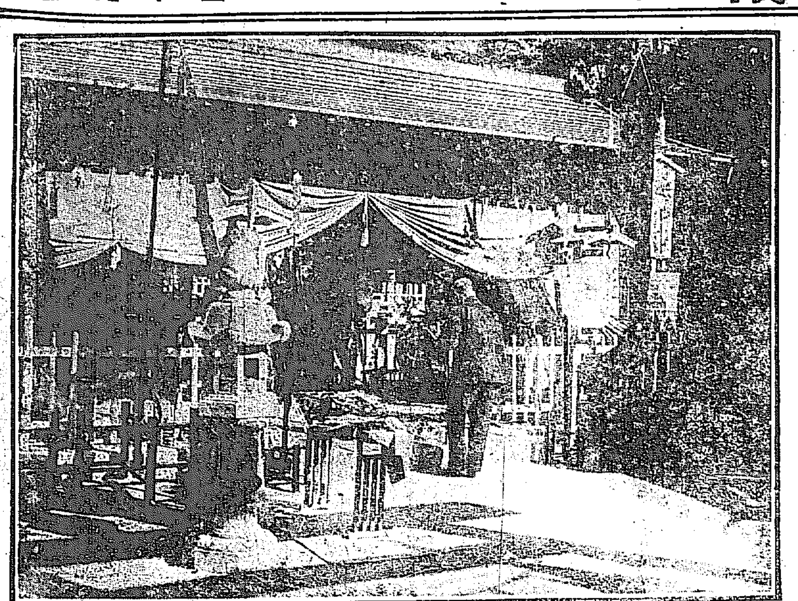
忠州 日榮商會

祝ぎ奉る萬歳の聲
勤政殿前三萬五千衆の大唱

今日しも我大君が尊き御位に即きます佳き日の空深緑に澄み渡りて京城の府民が赤誠を捧げて恭しく祝ぎまつり壽きまつる景福宮勤政殿前式場には朝の程より櫻門に日の御旗金風にはためき纖塵をも止めまじく掃き清められたる廣庭の東南に小高き臺を設けて清らかなる白布もて幕を廻らし注連打張り司會者の席をしつらひつ午後一時ともなれば禮裝の市民億々として集ふもの實に三萬有五千、内外の官民を網羅しさしもに廣き九百坪の廣庭も參差たる劍光帽影に滿ち充ち京城未曾有の壯觀言ふ可くもあらず、時しも三時三十分に近くや京城府尹金谷充氏は鞠躬如として司會者の席に就きて恭しく茲に奉祝の式を擧ぐる旨を宣し滿場の諸員粛として脱帽し東南に面し遙に京都の方を拜する中を最も莊重謹嚴なる聲張りあげて 天皇陛下の萬歳を唱し奉れば諸員之に和して萬歳を奉唱すその聲雷の如く北岳ために震ふの概あり蓋し寔に空前の盛儀と申しつ可しかくて萬歳を高唱すること三度更に恭しく敬禮して式を閉づ、折柄秋晴の日光を羽影に浴びて高舞ふ小鳩の群さへいとど此の佳き日を祝ぎまつるとぞ見えて目出度しとも目出度し

▲總督府の奉祝
歡聲十三道に滿つ

初冬の空朗らかに晴れて祥瑞の氣四海に遍き十一月十日、總督府にては午後三時三十分を期し豫記の如く御即位奉祝式を擧行せり、此日本府内二千數百名の職員は何れも禮裝に威儀を正して午後二時登廳時の移るを待つ程に山縣政務總監は池邊秘書官を隨へ正服に勲章大綬を佩びて登廳し諸員の敬禮を受けて總監室に入る、一同設へ廳て三時廿分振鈴を合圖に一同設へられたる玄關見付けの式場に參集すれば萬歳奉唱の時刻を報ずる三時三十分の振鈴と共に山縣政務總監開會を宣し 天皇陛下の萬歳を唱ふ、諸員之れに和す時龍山砲兵隊より打ち出す百一の皇禮砲をはじめ京龍其他附近工場の汽笛寺院の鐘鼓等一齊に轟き渡りて殷々轟々歡聲八道を壓するの概あり、斯て唱和三度一同京都に向つて最敬禮の後、政務總監[illegible]に閉會を告げ曠古の盛典を奉祝す可き第一日の式は畢れり



京城神社御即位式當日祭(山縣政務總監玉串を捧ぐ)

▲總監部

憲兵隊司令部及び警務總監部にては立花總長以下職員全部正裝の上各種勲章を佩用し午後零時二十分を以て高等官諸氏は司令部副官室に集合し判任官及び同待遇者雇員囑託憲兵補助員巡査補等は高等官食堂室に參集し同三十分より別室御眞影奉安室に一同整列の上立花司令官具警務官各課長の順に嚴粛なる奉拜式を擧行せられ了つて閉扉退場し夫れより一同司令部の東方高地の式場に於て勅諭捧讀式を擧行す參列者は各規定の位置に整列し京都の方に向つて最敬禮の後正面の一段高き所に於いて立花總長の勅諭捧讀あり時刻移りて午後三時三十分ともなれば立花總長の發聲にて『天皇陛下萬歳』あり諸員『萬歳』を三回合唱して最莊厳の裡に閉式し一同退場したり

▲總督邸受賀
參賀の車馬絡繹たり

御即位奉祝式を了れる後、山縣政務總監は白井武官、池邊秘書官、藤波通譯官等を隨へ直ちに總督邸に赴き、午後四時より總督に代りて朝鮮總督府主要職員、所屬官署長、官等の祝賀を受けしが李王殿下は豫記の如く午後三時四十五分昌德宮御出門、午後四時總督邸に御著ありて政務總監に對し親しく祝賀の傳達を請はれ、李太王、李堈公兩殿下亦共れ〳〵御名代を遣はされて鄭重なる奉祝の御挨拶あり、中樞院顧問、賛議、副賛議、朝鮮貴族等相踵いで來賀せる後、各國總領事、領事館員、在留外人、民間有志等多數の祝賀を受けたり、當日の總督邸は之れ等祝賀客の爲め門前市を爲し稀有の盛況を呈せり

▲警蹕の聲肅かに響く
瑞氣靉靆く南山松翠の下‖山縣政務總監以下京城神社即位禮當日祭に參列す

仰ぐも畏き天津日嗣の君の御位に登り給へるいとも目出度き十日の空は朝の程より朗かに霽晴れて秋氣清く澄みわたれるなりき、此の日午前十時より樹々の紅葉松の翠に照り映ゆ倭城臺上京城神社にては御即位禮當日祭の式典を執り行はれたり、定刻白袍の衣紋正しくつくろへる谷村祭主は齋員一同を隨がへて著床山縣政務總監以下李王李太王兩殿下代理其他諸員著席終れば齋員の嚴かなる修祓あり次で伶人の奏する嚠喨の曲警蹕の聲粛かなる裡に谷村祭主鞠躬如として進み出御扉を開き奉れば諸員一同一齊に敬禮せる光景神々しく之れより再び起る奏樂に連れて副齋主以下神饌十臺を傳供し終れば祭主は祝詞を奏上し玉串を捧げ續いて山縣政務總監並に李王李太王李堈公李埈公各殿下の代拜ありそれより一般參拜者の拜禮終りて神酒を授けたるが參拜者頗る多く式典の終りを告ぐるも尚ほ引續き神前に額きて拜禮する樣床しくぞ見受けられたる

▲滿都歡喜に輝く
何處へ行つても『お芽出度く』でニコ〳〵顔

十日は朝來日本晴の菊日和、滿都國旗と幔幕と提灯とで輝きわたつて見ゆる美しさ本町通を始め市中は朝鮮人側の北部鐘路方面に至るまで何れも陳列窓を裝飾して今日の大典を奉祝して居る、殊に商店各戸共店頭を閉して休業するので街頭は小學生小僧さん奥さん女中等の

▲ニコ〳〵顔 を始め正服燦然たる文武官や『お芽出度う〳〵!!』と挨拶する紳士など何れも輝いた面色で通る、又絹帽フロックコートの外人が俥を飛ばせば鮮人の奉祝に行く者も通る、電車は又晴衣の人々を乘せて國旗草花で裝飾して駛る、人も家も車も空も森羅萬象一として瑞氣に滿たぬは無い、殊に各商店の飾窓は何れも凝りに凝つた奉祝の意匠を現し實に目覺むる許りの美觀であつた、斯くして日本晴の朝からだん〳〵午後となり愈よ午後三時三十分の時刻が來ると滿都何れも靜粛の氣に滿ち漢陽公園からの號砲の合圖に續いて何れも 陛下の

▲萬歳を奉唱 した、尚ほ本町釘本商店では萬歳奉唱後店頭を通る人々に對し紅白のお鏡餅を進呈し大阪屋號書店は奉祝唱歌の印刷物を配り電氣會社前では活花大會の陳列があつた、新舊龍山方面は各戸注連繩を張り廻らし或は球燈を吊るし或は萬歳燈を建て商舖何も休業して各々服裝を改めて曠古の大典を祝し奉り午後三時半には遙かに聞ゆる漢陽公園より打ち揚ぐる煙花を合圖に滿都萬歳の聲天地に轟きて目出度き今日の日を祝し奉りたり

本町通の奉祝と京城郵便局の記念切手及び繪はがき賣出し

▲各寺院の奉祝

京城各寺院にては十日御即位禮當日何れも奉祝法會を催したるが永樂町西本願寺にては正午より各信徒參拜正面佛壇には御眞影を安置し寺僧の紙畳壽經作法勤式ありて善男善女の參拜者頗る多數なりき南山町東本願寺に於ては午前六時半と同十時半の二回奉祝法會を開始したるが本堂本尊前に御眞影を安置し讀經講話を了りて聖壽萬歳を奉祝せり又若草町曹洞宗別院、川端の妙心寺、日韓禪寺新町高野山、本町淨土宗別院共何れも多數の信者參拜盛大なる慶讃會を擧げたり

▲基督教聯合禮拜式

組合、日基、美以の各教會及び青年會聯合の大典奉祝禮拜は十日午前十時より長谷川町の日本基督教會に於て嚴粛なる式を行へり式は美以教會牧師藤岡潔氏の司會にて奏樂の裡に始め君ケ代の二唱森重作氏の聖書朗讀伊藤春吉氏の祈禱あり有志數名の讃美歌合唱の後丹羽清次郎、井口彌壽男、松本雅太郎、曾田嘉伊智氏等の各教會及び青年會代表者は交々祝辭又は祝文を朗讀し讃美歌祝禱の後散會したり當日參會者は三百餘名なり

●押すな〳〵
記念繪葉書の賣出しと記念捺印

御大典記念郵便切手繪葉書の賣出しに御大禮記念スタンプ捺印を始めた京城郵便局は十日朝八時から雪崩のやうな群衆が押懸た、中には定刻より二三時間前の未明から待つてたんも尠なからず愈よ發賣時刻となると廣い局の窓口廿八窓を悉く使用して局員必死となつて勵んでも何分夥多の群衆で追付かず押すな〳〵の大盛況であつた、中には繪葉書記念切手を買ふ他に日の丸の扇子に十錢切手を貼つて記念スタンプを乞ふもあり大事相な書籍に貼るもあり又記念郵便貯金の臺紙に記念切手を貼つてニコ〳〵する小學生もあつた

●仁川の提灯行列
十五日に繰り上げられたり

仁川にては御大典に際し提灯行列を行ふ事は既報の如くなるが十七日夜開催の豫定なりしも都合に依り一般府民と協議の結果十五日の夜を以て擧行することにしたる集合場所は水族館跡で十五日の午後六時迄に集合するので本社仁川支局は提灯行列に就て出來得る丈の斡旋をする事となつて居るから一般府民で御意見のある方々は續々申込んで貰ひ度い仁川支局に於ては蠟燭付き圓提灯一個五錢にて頒つ事となつてるから御入用の方は成る可く至急申込まれ度い尙ほ具體的の事は久水名譽總指令及び奥田總指令と協議の上近日中に發表する提灯行列に加はる各團體及び經路は後報に讓る事とすが仁川有志諸君から府民一般は非常なる意氣込みである、尙官公民こゝに協同一致の動作に出づる事であるから全府擧つて奉祝の意を表する事が出來る事である

●須磨子舞臺にて卒倒す

日なる九日の夜『復活』の女主人公カチユーシャに扮し第三幕目牢屋の場の幕切れにて滿場の喝采を博しつゝ、幕尾ども無事に打出し十日は朝來靜養し座員一同と共に大典を奉祝し元氣全く恢復したれば同夜六時より出

霜起日は横城十月二十八日、永興同二十九日、海南同一日にて前年と同十八日にて前年より十日早く、永興十一月一日にて前年と同日なりと

後一時を期し莊嚴なる國禱會を修行する事とし終つて宗祖小松原御法難の說教講話をなす由

講話等を爲す

發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人

天氣 は 晴れ一時曇り 十一月十一日

東京藝術座一行 島村抱月 松井須磨子
午後正六時開演
一復活 カチユーシャ
一剃刀 新社會劇
○京城にては開演仕らず候
○京城よりの觀客の便を圖り京城各煙草小賣店(廣江商會)にて入場切符を發賣し特に往復電車切符を相添へ申候
新龍山三角地電車停留所前 佐久良座

通俗大學文庫
ポケット型鳥の子美裝 一百頁内外各冊三十錢 送料四錢 大文東京刊行物
總裁 後藤男爵 會長 新渡戸博士 主幹 龍居文學士
古今東西に渉る諸科の智識を普及し國民教育の一助たらしめ最少の錢を以て文字を假りて簡潔に說明 著者は毎編一流の大家
新刊 第三編 國民教育論 大隈伯爵著 大隈伯が國民教育の理想と實行方法とを詳述したる貴重文字
第一編 最近の東京市 前東京市長阪谷男爵著
○豫告 後藤男爵著『日本膨脹論』は第三編と
近刊目錄 建部博士 松岡博士 上田博士 新渡戸博士 高野博士
日本膨脹論 都會生活と田園生活 日本の植民的發展 國語學の十講 移民 本邦人口の現在及將來
發行所 東京四谷區傳馬町 通俗大學會 電話番町五六七 振替東京五七九
東西時論 新刊 獨逸と東亞 ウエルトハイメル著 時局問題に關する世界の言論思潮を手取り早く紹介せんが爲め通俗大學文庫の副業として刊行す 特に本邦に關係ある部分 毎冊十錢送二厘 通俗大學會編

新進畫家揮毫
室内裝飾用 油繪額面月賦提供
▲新時代の美術品として和洋の室内を飾るに足るべき清新壯麗なる油繪を高尚優美なる金縁額面とし最も低廉なる價格を以て希望者に頒つ▲會員を募集(甲種七圓乙種五圓)文明的月賦法で最初現品を送付し七回月賦拂の便有り
見本 ハガキにて申込次第進呈 東京芝白金 新美會

千載一遇の御大典儀に際し恭しく
聖壽の無疆を祝し奉る
釘本藤次郎

本書の特色
京都通信社編纂 御大禮要覽
御大禮圖式、御苑内平面圖、同京都寫眞十四葉挿入、紙數二百五十頁洋裝新形サック入 正價金壹圓 内地郵送料二十錢
(一)御大禮要覽は御即位禮大嘗祭其他の御式事の解釋には詳細なる努力を傾注して餘蘊なし
(二)御大禮要覽は御大禮の舞樂十二種をば一々紙上に上せて料理せり是本書の手腕なり
(三)大正四年八月末日現在の御大典に關する各府縣記念事業の一斑を各府縣別に記載せるは獨り本書あるのみ
(四)御大禮要覽は御大禮の御式場に用ひさせらる京都御苑內名勝古蹟と其記事文とを路順に列擧し且つ其平面圖を附して御大禮の參列者並一般拜觀者の利便に供すると共に敬仰的印象を深甚ならしむるに力めたり
(五)御大禮要覽は大禮使職員、同官制、殊更其他共大正四年八月末現在(九月任命の典儀官をも含む)のものを記載して一目大禮の機關を瞭然たらしむ
(六)御大禮要覽は明治帝の京都紫宸殿の即位禮御式東京吹上御殿大嘗祭御儀をば全文挿入して當時の御模樣を紙上に躍如たらしめ以て彼此參照考究の料に資す
發行兼發賣所 京都市二條通東洞院東 合資會社 京華社 振替貯金口座大阪四千五百十番 電話中三千三十一番

奉祝御大典
仁川飲食店一同

◉行幸の夕 未曾有の混雜＝全市紅の海と化す

大典御擧行の爲　聖上陛下には七日午後一時五十五分御恙なく京都驛に御著輦特別公式の鹵簿粛々と同三時十分京都御所に入らせられた此夕べ洛陽の空はどんよりと曇つて東山三十六峰は繪のやうな薄靄に包まれのんびりとして恰も太古のやうな氣持がする京都御所に御著輦あらせられて警戒線が解かれる御苑內はじめ御通路の兩側にぎつしりと黑山のやうに押詰められた拜觀者が雪崩を打つて大路小路に溢れ出される、廂髮、丸髷、島田髷の婦人連が只モウ其の雜踏にヒイ〳〵と叫び狂ふのみで其の大混雜は到底名狀すべからずである、其所へ京都驛に奉迎の各宮殿下以下諸員の馬車、自動車、人力車など鹵簿を拜觀せんとする高齡者

ごつた返しになつて通る、御苑內も御著輦あらせられた後ら一般の參入を差許されたので今まで烏丸へ烏丸へと集つた十數萬の人が今度は御所へ御所へと指して密集するのでさしもに廣い御苑內もまるつきり人の波の巻、軈て暫らくすると天機奉伺の爲め參殿する文武百官が馬車自動車を疾驅せしめるので玆御苑內の一廓は未曾有の雜踏、日がとつぷりと暮れる時分には雨がぽつり〳〵と降つて來さうだつたが市中の賑ひは壹に倍して一入の盛況、全市歡喜に充ちて往く人歸る人は何れもニコ〳〵のホク〳〵顏である、御苑內はじめ四條五條其他奉祝門、烏丸通は前夜來同樣の華やかなイルミネーションで目が眩むばかり、七時になると市內各學區から戸毎に奉祝の紅提灯を携へて御苑內に集る間もなく井上市長が自動車で來る京都市主催の奉祝提灯行列が催されるのである、集つたものがざつと三萬人、御所に面して整列し市長發聲のもとに萬歲三唱、それから寺町御門を出で蜿蜒長蛇の如く行列を整へて寺町から四條、四條から烏丸と市中を練廻る、斯うして御幸をお迎へした京の巷は何所も彼所も萬歲また萬歲、全市は不夜城を現出し紅の海に化した（京都特派員報）

◉釜山の奉祝 海陸共に盛裝す

九日夜迄頗り風強かりしが十日朝來無風快晴宛も春の如く市中は華やかに飾られ碇泊の軍艦新高其他の各汽船帆船は滿艦飾をなし彩旗海風に翩飜たり午前九時より高齡者九十四名に對する天盃拜授式を釜山府廳に於て行ひ拜受者及び附添人、代理人其他の官民參列し若松府尹は御賜の主旨を傳へ拜受者參列者共に聲を吞みて聖恩の有り難きに感泣せざるはなし午前十一時無事式を終れり午後三時より市民約一千餘名は龍頭山に參集し同三十分福田增兵衛氏の主唱にて東方を奉拜し萬歲を三唱せり市中は近來稀なる盛況を呈せり（釜山特電）

◉公州の奉祝

公州にては官吏は各所屬官廳に市民は學校に參集し午後三時三十分東方に向ひて萬歲を三唱せり市內は善美を極め空前の盛況を呈す此の日管內各郡にては內鮮高齡者に御賜の天盃拜授式を擧行せり（公州特電）

◉連絡船上陸客

九日午前入港對馬丸二三等客（一等なし）（二等三十名）杉山よし、有吉ひさ、松田德次郎、惣路らく、植野りう、原田萩衣、同ちゑ、同久代、樋山きわ、中村太郎、加藤右馬吉、安藤晋、小谷淸、飯田廣助、八田たか、三隅陽藏、野崎たき、小倉武之助、大橋のぶ、韓樹勳（三等百四十名）

九日午後入港弘濟丸二三等客（一等一名）ヘフター（二等十三名）立花ちな子、濱田友國、榎本正造、銀田わし、同正晴、天野八郎、澤田吉三郎、治部守、谷口榮太郎、小南夫一、新田耕一、同芳江、同武子（三等五十五名）

奉祝御大典
船舶代理業
山下吉藏
仁川本町一丁目 電話一〇八番

奉祝御大典
營業科目 撫順炭特約販賣 海陸運送業 內外船舶代理店 沿岸荷物取扱
仁川本町四丁目
野口商會
（電話一七三番）

奉祝御大典
日鮮人向雜貨輸入商
仁川本町
鈴木倭商店
電話一一一番 振替京城一三二番

日本生命保險會社代理店
橫濱火災保險會社代理店

奉祝御大典
材木商 登錄商標
仁川濱町
大二商會
電話五〇一番

奉祝御大典
最上醬油
釀造元 高杉醬油釀造場 電話七六五番
貿易商兼回漕業 仁川海岸町三丁目 高杉昇商店 電話五九番

奉祝御大典
會席御料理
仁川仲町三丁目
柳家
電話一二九番

奉祝御大典
朝鮮仁川港
合資會社 木村組
電話 給水部 回漕部（三一〇番）

奉祝御大典
仁川仲町一丁目 大和組 電話五三八番
主任 廣池亭四郎
平壤大同門內 大和組支店 電話三二四番
鎭南浦支店 電話二四一番

奉祝御大典
仁川港本町一丁目
福島組 電話五三五番
主任 平大友市
電話五四二番 仁川稅關構內出張所

奉祝御大典
京城電氣株式會社
仁川支店員一同
電話五一一番・電話二二四番

奉祝御大典
仁川海岸通
仁川水產株式會社
電話二八六番

謹祝御大禮
登錄商標 石拔撰手 擦精磨白米
於大共進會金牌受領
仁川本町二丁目 奧田貞次郎商店 電話五一番
仁川山手町三丁目 奧田精米所 電話六〇八番
大連岩代町 奧田精米出張所 電話四八五番
東京神田區佐久間町三丁目 奧田出張店 電話下谷四六五一番

奉祝御大典
米穀商
仁川本町
平山松太郎商店
電話一五三番

奉祝御大典
仁川本町二丁目 奧田商店羅紗部 電話五一番（振替京城五四番）
京城明治町二丁目 奧田商店羅紗部出張所 電話一八九一番
大連市大山通二丁目 奧田商店羅紗部出張所 電話一三一八番

奉祝御大典
仁川
仁川穀物協會
電話一五〇番 三二一番

奉祝御大典
貿易商 米雜穀商 精米業 委托賣買 清酒釀造
朝鮮仁川新町一丁目
高野周三郎本店
長電話八一番

奉祝御大典
仁川本町四丁目 光田造船部 電話二五六番
仁川濱町四丁目 光田鐵工部 電話三〇五番

奉祝御大典
會席御料理
仁川日本公園
八阪樓
電話三六番

奉祝御大典
仁川本町一丁目（電話四二番） 慶田組輸出部
仁川海岸通稅關前（電話七二番） 慶田組荷捌部
仁川稅關構內（電話二七八番） 慶田組濱出張所

奉祝御大典
仁川金物船具商組合（いろは順）
仁川本町三丁目 電話長二七番 德本商店 振替口座京城三六四番
仁川海岸一丁目 電話七番 加來商店 振替口座京城二六〇番
仁川本町一丁目 電話五六番 村谷吉藏本店 振替口座京城五九番
仁川本町一丁目 電話一二〇番 村谷勘一商店 振替口座京城一六番
仁川新町一丁目 電話一一八番 美濃谷本店 振替口座京城八三番
仁川本町四丁目 電話一一六番 白神洋行 振替口座京城九二七番

奉祝御大典
トライアンフ自轉車 朝鮮總代理店
各國自轉車及附屬品直輸入
仁川港京町
鬼頭自轉車部
振替京城六八番

奉祝御大典
清酒釀造業 穀物貿易商
清酒 天双譽正宗 平生榮衛友千鳥 發賣元
仁川 吉金喜三郎商店 電話七六四番
天安出張所 馬山出張所

奉祝御大典
協同郵船會社仁川支店
丁致國
電話七四四番

奉祝御大典
仁川通關組合（イロハ順）
堀商會 電話一〇番
川井田通關部 電話八〇番
內國通運會社 電話二八番
山田通關部 電話三四八番
慶田組 電話七二番
福島組 電話五三番
朝日組 電話五二九番
協同組 電話五二番

奉祝御大典
鐵道局承認貨物取扱店
仁川運送組 電話七四八番
中村運送店 電話五三九番（事務所及仁川驛組合詰所用）
協同組運送部 電話五二二番
川井田運送店 電話八〇番
慶田組運送店 電話七二番
中條運送店 電話六三〇番
大同運輸部 電話六五七番
華興公司 電話八三番
朝日組 電話五二九番

奉祝御大典
仁川府廳（次第不同）
堀內宗生　都築堅雄　岡本保誠　鎌田新太郎　堀米茂雄　島崎要一　坂東門十郎　家弓伊八郎　鄭泰恒　崔益夏　趙斗賢　荻原榮佐　齋藤新一　河野藤一郎　上野小一　櫻木昌三　松野貫一　尾西茂樹　濱守力太郎　藤崎新太郎　金在璜　青木茂　孔元錫

▽今十日夜出演 龍川佐久良座に開演し市中の人氣を浮びつゝある歐局座松井須磨子は初…買されたるにや當閉づると共に其儘昏倒し暫らく座員の介抱をうけたるが幸に當夜は四幕目五…

◉各地初霜初氷 …觀測所報に據れば其後の各地初…二十八日成川同二十八日、淸州同二…十八日にて前年と同じく蘇蹕十月二…

…する冊子を作…說して祝辭を述べると共に旅本傳道し十一日午…より神職、信徒及び敬神講話會員參集し御大典奉祝祭を謹修し式後說教

越後大評定

第四十席　早川貞水口演

お千代の自害

此とき若旦那金三郎『お千代、誠に私はお前を手放して、殿樣の御機嫌を取つてくれと云ふことは、何としても私の口より頼む譯にいかぬ、けれども親を殺すことは出來ぬから、何卒いま六兵衛の云つたことを聽き分けて是のところは一時なりと、殿樣の御心を取直してくれ、私の父の金兵衛の無事、またお前の里方の安全、どうか了見してくれ』千『旦那樣からさう云ふ御許しが出ますれば私の一存を以て、双方無事に濟みますこと宜しう御坐います』と云つて承知してくれました、そこで金三郎も番頭六兵衛も安心する、松屋三右衛門夫婦も『それなら娘がさうしてくれゝば、後の心配は免れる』と云ふもの、嫌でもあらうけれど、双方の心中を察して、此事だけ聽濟んでくれ』誠に切ないけれども、親々も其事を云ふ、一言まじりに涙、そこで皆に向ひ『先づ御孃樣が御決心下すつたから御一同御安心下さい』一同も安心して引取る、夫では明日此事を御奉行樣へと云ふことになりました、所が其翌朝女中が　女『大變で御坐います　○『何事だツ　女『只今お千代樣のお部屋へ參りましたら、御屏風を取除けまして見ました所が有らう事かお孃樣は御自害　六『エツそれは大變』と番頭六兵衛驚いて、お千代さんの部屋へ驅込んで見ると四邊は變る唐紅ゐ、物の美事に自殺で御坐います、イヤコリヤア大變な事をしてしまつた、若旦那樣、御内儀さん、御入來下さい……早く松屋へ人を出して』其内に松屋夫婦が飛んで來る○『サア大變、どうしたら宜からう』△『何うしたら宜からうつて、此通り死んで了つたもの、仕樣がない』三右衛門夫婦も、是は娘、早まつたことをしてくれた』金三郎は『お千代、どうしてお前は死んださう云ふ覺悟があるなら、何せ私に一言云つてくれなかつた、夫では昨日皆の者に云はれ、進退ならぬで承知したと云ふやうなもの、操を立つて此自殺、アヽとんでもない事をした』と金三郎傍の見る目も憚らず、千代の屍骸に取縋り、ワツと許りに泣出しました、其容子を見て三右衛門夫婦も『無理な事を云つたので、娘が承知しないで、金三郎殿に操を立つたのは、誠に女の道として申し分がない其の身の志、それを無理に強ひたは六兵衛殿、此方が無理と云ふもの　六『イヤー今更申し譯が御座いませぬ何うしたら宜しう御座いませう、ねえ御内儀さん　内『ア、伜金三郎に操を立つて、お千代さんが此自殺、今更何と仕樣もない　金『アツ此處に遺書が』と、遺書を披いて讀み下すと『何と云つても良人金三郎殿に誓つた私の心、斯う云ふ事になりましたのも皆私のため、萬事は私の罪にして御上へ嘆願、御父上の御助けを願ひたい』其遺を讀む時には、金三郎手は戰慄、涙を流し『ア、是程まで思ひくれたか』と上を下への大騒ぎ所へ江戸へ參つて仕入物を致して夫から諸方用を達して歸つて參りましたが、番頭治助、歸つて來て見ると、萬屋の家の轉り覆るやうな騷動どう云ふ事情かと聞くと是れ〱。

奉祝御大典　有樂館

夜間は常日通り開館可仕候

演藝案内

壽町 電話一〇五〇 壽館
[illegible]

御成町 電話二九一 御成座
五十六回替藝題　不浪女代作
（一）人身の賊僞（二）浮世……
小島康之助

櫻井町 電話八七三番 大正館
十一月十一日より寫眞全部取換　○實寫菊の花（御大典に因み特に映寫す）○喜劇 [illegible] ○新派悲劇 [illegible] 送の果 全三卷 [illegible] 黒鬼 [illegible]

新築落成 本町一丁目 電話二六六 有樂館
十一月八日より優秀なる新寫眞提供　○實寫瑞西ベルの風技　○喜劇忠實なる家具　[illegible] ◎新派正劇幼な顔 全三卷 [illegible] ◎女俠客血櫻お駒 [illegible] ◎活史劇 [illegible]

十一月十二日九星　舊十月六日丁未　本命八白艮成先負
[illegible]

入院隨意（診療夜九時迄）
泌尿器病
腎臟病 膀胱病 淋病 梅毒 痳疾 皮膚病
專問
永金樂町二丁目 光敎會隣り
安部醫院 電話四一九番

明治町 電話二六〇番 浪花館
盛甲斐虎丸演題替り　美術の發名作左小刀　雨夜の鐘四ツ谷怪談　江戸の俠骨加賀鳶
[illegible]
毎夜午後六時より開演仕候

龍山 佐久良座
藝術座 島村抱月一行 松井須磨子
九日初日 復活「カチユーシヤ」 剃刀「新社會劇」

千載之一遇
御大典御盛儀 第一報
二重橋御發輦より東京驛御乘車並に東京市内の光景
御大典御盛儀 第二報
京都驛御著輦御行列並に市内光景
第三報以後は順次到著次第他館に卒先上場可仕候
本日より特に差加へ拜撮仕候
大正館

天然色活動寫眞株式會社特約一手代理店
黄金町四丁目 電話二六三七 黄金館
龍山停車場前 電話（龍山）四番 龍光館
十一日より特別大興行 南洋占領地實寫 [illegible]

馬拂下廣告
[illegible]二十四頭 [illegible] 十七日午前九時當隊ニ出頭ノ事
大正四年十一月十一日
京城憲兵隊

物品拂下
第一號 旋盤 [illegible]
第二號 [illegible]
第三號 [illegible]
第四號 [illegible]
[illegible]
朝鮮總督府鐵道局

廣告
御大禮奉祝の爲京城府民奉祝宴會擧行候に付有志の諸彥は左記御承知の上會費相添へ御申込相成度候
記
一日時　十一月十七日午後一時
一會場　景福宮内慶會樓
一會費　金一圓
一申込期限　十一月十二日正午迄
申込所　京城府廳内務係　京城府龍山出張所
大正四年十一月　日
御大禮奉祝會委員

解傭廣告
店員　山下安吉
右は今般合意の上解傭致候間此段及廣告候也
京城本町二丁目
株式會社 日本蓄音器商會

私儀今般日本蓄音器商會京城出張所を辭職致し靑島に出張營業可仕候間爾今倍舊の御引立奉願度候
山下安喜

酒煙草きらひになる藥
禁酒丸　禁煙液
どんな酒煙草のみでも害なく心から嫌ひになる郵券二錢送れば説明書及大澤博士の禁酒論進呈　其他名士の
本舗 大阪市南區 森田商店

今日の記念事業に植附最好評なる
丹波栗 苗木大分讓（造幣局製記念メダル贈呈）
丹波氷上郡和田（栗廼家）中岡商會

新發賣大好評
學生足袋
強くてお價段の安い學生らしき
到る處に販賣店あり
大阪府堺市 福助足袋本店

家傳靈藥
ちの道
[illegible]
小松盛林堂

馬拂下廣告
日本馬七頭
十一月十五日午前十時平壤憲兵隊に於て賣拂す買受望みの者は印鑑携帶出頭すべし
平壤憲兵隊

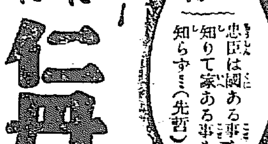
消化と毒けし
仁丹
御大典の祝賀に人込に
仁丹
是非必要
金言　忠臣は國ある事を知りて家ある事を知らず（先哲）

期米株式
文勝
北斗法は期米株式の天底市を豫測せし大勝利法也 [illegible]
東京市小石川區表町
實業通信社

滋養大關
乃木餅 一箱十錢 五十錢
京城壽館前 乃木餅屋 電二七五二番
滿鮮到る處の菓子店雜貨店にあり

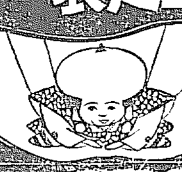
御大典に際し一般家庭の衛生は最も大切なり有名なる消毒用
アルボース
を日々使用し又旅行はアルボース消毒石鹸を必ず御携帶あれ

着せよ
梅毒家庭治療
ハガキで申込め内容書無代進呈す
時代の要求に應じ發表せる療法は化學上の新知識を應用せる内服劑にして難症にも偉大の効あり
東京本所向島小梅町一三四
東京藥化學研究所


K.O.BONBON
MALZEXTRACT HUSTEN BONBON
はなやめるせき人々
セキドメ
ボンボン
クラクラでボンボンさせられま
和光堂
▲効力確實なる爲め醫家に賞讃せられ…▲旨き味菓子より老人方に喜ばれ…▲携帶に便なる爲め事務家旅行家に愛せらる
定價 大一個 小一個 二十錢

奉祝
▲六千萬同胞諸君!!
御大典の莊嚴を拜し伏して臣子の分を思ひ君國の爲に活動すべく最良の強壯藥大亞藥にて今
▲健康を養はれよ!!
本舖 大阪道修町 藥劑師 小西久兵衛

美の素
クラブ洗粉
秀でたる技術上の經驗に依て年々改良に改良を加へたる
皮膚を美化する美身料として醫學者間にも著しき其の効果を認めらるゝに至れり



大正四年一月　汽車發着時刻
[illegible]

京城日報

勅語

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ惟神ノ寶祚ヲ踐ミ玆ニ即位ノ禮ヲ行ヒ治ク爾臣民ニ誥ク

朕惟フニ皇祖皇宗國ヲ肇メ基ヲ建テ列聖統ヲ繼キ佑ヲ垂レ天壤無窮ノ神勅ニ依リテ萬世一系ノ帝位ヲ傳ヘ神器ヲ奉持シテ八洲ニ臨ミ皇化ヲ宣ヘテ蒼生ヲ撫ス爾臣民世世相襲キ忠實公ニ奉ス義ハ則チ君民ニシテ情ハ猶ホ父子ノ如ク以テ萬邦無比ノ國體ヲ成セリ

皇考維新ノ盛運ヲ啓キ開國ノ宏謨ヲ定メ祖訓ヲ紹述シテ不磨ノ大典ヲ布キ皇國ヲ恢擴シテ曠古ノ偉業ヲ建ツ聖德四表ニ光被シ仁澤遐陬ニ霑洽ス

朕今不績ヲ紹キ遺範ニ循ヒ内ハ邦基ヲ固クシテ版籍ノ安キヲ圖リ外ハ國交ヲ敦クシテ倶ニ和平ノ慶ニ倚ラントス朕カ祖宗ニ負フトコロ極メテ重シ祖宗ノ神靈昭鑑上ニ在リ朕夙夜兢々天職ヲ全クセムコトヲ期ス朕ハ爾臣民ノ忠誠其分ヲ守リ勵精其業ニ從ヒ以テ皇運ヲ扶翼スルコトヲ知ル庶幾クハ心ヲ同クシ力ヲ協セ倍々國光ヲ顯揚セムコトヲ爾臣民夫レ克ク朕カ意ヲ體セヨ

（十日卽位大禮紫宸殿の儀に於て　聖上陛下勅語を賜ひ大隈首相壽詞を上れり　十日午後四時京都發至急電報）

壽詞

臣重信謹ミテ白ス伏テ惟ルニ

陛下萬世一系ノ寶祚ヲ踐ミ憲綱ヲ攬リ權維ヲ統ヘ玆ニ天津高御座ニ陞御シ即位ノ大禮ヲ行ヒ給フ遠邇瞻仰シ億兆抃舞ス　臣重信誠歡誠喜頓首頓首

伏テ惟ルニ

皇祖天壤無窮ノ神勅ヲ皇孫ニ賜ヒテ八洲ニ君臨セシメ三種ノ神器ヲ親授シテ五部ノ神ヲ臣事セシメ給フ萬世不易ノ皇基確然トシテ玆ニ定マル

皇宗英武聖明皇祖授國ノ神意ヲ體シ天業ノ恢宏セントシ皇師ヲ率キテ中洲ヲ平定シ皇位ニ即キテ萬機ヲ親裁シ大ニ經綸ヲ行ヒ皇範ヲ後昆ニ貽シ給フ而シテ皇孫ニ奉事セシメ諸部ノ子孫亦先志ヲ繼キテ皇謨ヲ翼贊ス億載一統ノ皇業府爾トシテ是レ尊シ

先帝登極ノ初メ復古ノ廟策ヲ定メテ維新ノ鴻圖ヲ啓キ開國ノ皇猷ヲ統ヘテ萬邦ノ善長ヲ取リ藩封ノ舊制ヲ廢シテ一途ノ治化ヲ施シ不磨ノ大典ヲ布キテ立憲ノ政揆ヲ明ニシ兵制ヲ建定シテ陸海ノ充備ヲ嚴成シ文教ヲ宣布シテ黎元ノ智德ヲ啓養シ産業ヲ殖興シテ厚生ノ途ヲ弘メ制度ヲ釐革シテ庶政ノ機ヲ弘ニシ給フ於玆乎國家ノ綱紀燦如トシテ光張シ○○（電文不明）ノ大勢駸駸トシテ已マス

陛下大統ヲ承ケ遺績ヲ紹キ給ヒ皇祖皇宗及ヒ列聖ノ宏謨ニ循ヒ丕基ヲ鞏固ニシ國光ヲ宣揚シテ天職ヲ全クセントシ宵衣旰食聖衷ヲ勞シ給フ今大禮ノ吉辰ニ方リ明詔ヲ降シテ樂國ノ大本ヲ申明シ臣子ノ恒道ヲ提開シ給フ　臣等感激止ナシ伏テ惟ルニ陛下仁孝恭謙ノ天資ヲ以テ熾隆ノ治ヲ圖リ給フ　皇祖皇宗及列聖ノ神佑陛下ノ聖躬ニ在リ皇業愈殷ニシテ德澤益洽ク聖恩四海ニ溢溢セム　臣等夙夜勤勉行ヲ協セ心ヲ同クシ忠藎ノ節ヲ勵マシ奉公ノ誠ヲ竭シ以テ聖旨ニ答ヘ奉ラムコトヲ誓フ　臣等幸ニ盛儀ニ班列シ瑞雲ノ鳳殿ニ繞リ仁風ノ錦堂ヲ颺カスヲ望ミテ發頭躍悦ノ至ニ耐フルナシ　臣重信帝國臣民ニ代リ恭ク大禮ヲ賀シ千萬歳ノ壽ヲ奉ル　臣重信誠歡誠喜頓首謹テ白ス

内閣總理大臣　伯爵　大隈重信

李王殿下奉賀（總督官邸）

總督府の奉祝

奉祝御大典
最上醤油
特許機械製　ほまれ味噌
絶對的品質本位
鮮滿釀造界唯一の名譽
大共進會に於て
金牌受領
釀造元　仁川港
日本醤油株式會社

奉祝御大典
宮内省御用達
キリンビール發賣元
和洋酒食料品直輸入卸小賣
株式會社　明治屋　京城支店

奉祝御大典
良品は經濟なり
我社の製革は優良にして舶來品を凌ぐ
朝鮮永登浦　朝鮮皮革株式會社
我社の製靴は堅牢にして耐久力に富む
而して價格は頗る低廉なり
京城南大門通一丁目　同販賣店

奉祝
創立　明治二十九年
資本金　五百萬圓
本店　東京市日本橋區吳服町
京城支店　京城黄金町
東京建物株式會社
電話一三八一・一六八一番
營業科目
土地建物抵當貸付、土地建物賣買紹介、普通建物建築請負
土地建物評價鑑定、月賦償還建物建築

…に拜賀の官民陸續闕出入するあり午後一時前後よりは大雨霰を混じ降り來りしも須臾にして晴れ午後二時よ…

…議員を代表して奉祝文を朗讀し…三十分川上滿鐵理事の發聲にて　陛下の萬歳を三唱し其れより祝杯を擧…

即位大典

秋天一碧、天に瑞氣漲り、地に祥靄滿ち、麗陽煕々として紫宸殿上に輝く處、賢所御大前の儀に引續き、紫宸殿の御儀式あり。凡そ渾圓球上、儀禮多しと雖も、此度の御儀の如く絶對無上なるはあらじ、虔みて 天皇陛下萬歳を壽き奉る。

◎紫宸殿の御儀（京都特電）

十日午後一時三十分、瑞雲棚曳く京都皇宮紫宸殿上に於て 今上陛下御即位の大典を擧げさせられたり、此の日 陛下には黄櫨染の御色鮮かなる最高の御裝束にて殿上の高御座に著かせられ、皇位繼承の御事を國の内外に告げさせ給ひ、勅語を宣せられ、大隈內閣總理大臣恭々しく壽詞を奏し奉り、其の終聲にて諸員一齊に壽き呼ばう萬歳の祝聲を揚げたり

諸員參集

之より先き、近衞儀仗兵は秋天高く澄み渡れる建禮門外並に建春門外の地に整列し時の進むにつれ、參列を許されたる文武高官、優遇者並に夫人、外國交際官並に夫人等今日を晴れなる大禮服、正裝、制服若くは通禮服を著用し、朝集所を出で、建春門より參入し日華門外と承明門外に列立し肅然として御式の始めらるゝを待てり

儀容齊整

御式場に奉仕する諸員は、參列者同樣の服裝にて掌典長及び掌典は束帶を襲著に著け、樂官及び式部職員は衣冠單を著し、衞門の典儀官三十名は承明門と日華門と月華門とに左右各三名、長樂門と永安門とに左右各二名左腋と右腋とに左右各一名宛分れて其れ〲衞門の位置に著く、次に典儀官一名宛、司鉦司鼓の判任官六名を率ゐて、一方は日華門一方は月華門より參入して司鉦司鼓の任に就けり次に威儀物捧持の典儀官二十名宛同じく日華月華の兩門より入りて中錦纛の前に整列す次に威儀の典儀官十名宛同じく日華月華の兩門より入りて南階東西の本位置に著けり、斯くて儀容は全く整ひぬ

宛ら繪卷物

此の時、合圖の鉦と皷とは三たび鳴れり、諸員襟を正して整列すれば、大禮使高等官之れを導き、日華門外に列立せる者は紫宸殿の東階より上りて東廂の位置に著き、承明門外に列立せる者は日華門東西の廂より左右に分れて廻廊の中に定められたる席に著す、宛がら繪卷物を披けるが如く尊くも亦美しき光景也、次に東帶に佩劍の戸田式部長官と伊藤式部次長は南廂に進み、次に鷹司大禮使長官は石原同次官と共に同く南廂に進みて式部長官の上位置に著き、次に大隈內閣總理大臣、波多野宮內大臣同じく此處に進みて大禮使長官の上位に著く、其れより皇太子殿下を始め奉り、竹の園の彌榮に彌茂れる親王、王各殿下には高御座前面の壇下に進まれ、北面して參列あらせらる

天皇出御

やがて式部官出御を知らしむる爲め一聲『警蹕』を高唱すれば 天皇陛下には御立纓の御冠に御袍(表は堅織物、黄櫨染、桐竹鳳凰麟の御紋、裏地は平絹、蘇芳又は二藍色)御下襲(表は堅織物、白色小葵御紋、裏は堅織物、蘇芳板引色、(堅遞菱の御紋)御袙(表は堅織物、紅板引色、小葵御紋、裏は平絹、紅色)御單(堅織物、紅色、繁菱御紋)御表袴(表は浮織物、白色、窠に霰の御紋、裏は平絹、紅板引色)御大口(表裏とも平絹、紅色)御組帶(白)御草鞋(繧繝の錦張)の御裝束にて後房より出御あり、御筵道を靜々と進ませ給へば玉歩の御軌み殿上殿下の隅々までも聞え謐けさの極み哉、日像の幢旛に和める日射も眩がましく、やがて高御座の北階より昇御あり、御椅子に掛けさせ給へば、侍從は御劍御璽を案上に奉安し、御笏を奉り階を降りて後方に侍立しぬ

神威赫灼

此の時、高御座に昇りて東北隅に伺候せるは大山內大臣也、內大臣の後方壇下に進みて侍立せるは鷹司侍從長、內山侍從武官長也やがて二人の侍從進み出で、一人高御座西階より昇り、一人高御座の東階より昇り、高御座の御帳を左右に搴げ流し奉るや、天顔麗はしく御笏を端して立御遊ばれたる 天皇陛下の御英姿明らけく殿上殿下肅然として最敬禮をなし、神威赫灼炳として八紘を光被するの概あり森嚴の氣四圍を壓す

勅語宣下

參列參役の諸員肅々として控ゆる間に於て、大隈內閣總理大臣鞠躬如として殿上の西の階を降り、南庭に進み北面して南階の下に起立せり、於に 天皇陛下玉音朗かに大統を承け即位の式を擧させ給ふ旨勅語あらせ給ふ(勅語一面奉掲)次で大隈內閣總理大臣南階を昇り、南簀子の下に於て文武百官並に七千萬國民を代表して壽詞を奏上し奉れり

萬歳三唱

大隈內閣總理大臣壽詞を奏し訖つて南階を降るや、光り眩き萬歳旛の前面に進み、萬歳を三唱す、諸員之に和して萬歳を唱へ奉る、時正に午後三時三十分、終りに大隈內閣總理大臣は西の階を昇りて本の座に復し、嚴かなる警蹕の裡に 天皇陛下には龍顔殊の外麗はしく入御あらせられ、御式終るの合圖たる鉦と皷との三響を待ちて、涯なき光榮に浴せる諸員順序に退出せり

京都東本願寺附近奉拝者

◎宮中奉告祭の儀

十日京都に於て即位の大典をあげさせらるゝと同時に宮中にては午前九時三十分より皇靈殿神殿に於て之が奉告祭を行はせられ奏樂中に御開扉神饌幣物御供了つて九條掌典次長恭しく祝詞を奏し引續き 天皇陛下勅使松浦靖子、皇后陛下御使東久世秀雄男は束帶にて順次拜禮ありたる後再び奏樂中に閉扉幣物神饌を撤し各員退下茲に奉告の儀を畢り九條掌典次長は此旨京都行宮に電奏せり（東京特電）

◎養老賑恤の御沙汰

養老並に賑恤に關する御沙汰左の如し（京都特電）

耆耋ヲ存シ耄ヲ訪フハ人ニ孝ヲ致フル所以ナリ、恤ヲ布キ恩ヲ垂ルハ民ノ乏シキヲ濟フヨリ先ナルハナシ、茲ニ登極ノ初メニ當リ宗祖ノ遺範ヲ紹述シテ養老賑恤ノ典ヲ行フ其レ有司諭シテ朕ガ意ヲ宣布セシメヨ

◎李王妃殿下以下敍勳

御大典に際し畏き邊りより左の如く敍勳授章の御沙汰ありたり（京都特電）

敍勳一等授寶冠章　李王妃尹氏

授旭日桐花章　勳一等李埈公

敍勳二等授寶冠章　李埈公妃金氏

◎陸軍懲罰者恩典

十日官報號外を以て陸軍軍人懲罰者に對する恩典を發表されたり（東京特電）

朕陸軍ニ於ケル懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ制定シ之レガ施行ヲ命ズ

大正四年十一月十日

御名　御璽

軍令陸第十五號

大禮に付特典を以つて大正四年十一月十日前に監視又は陸軍懲罰令に依り懲罰處分を受け其執行を終り若しくば免除せられたるもの其執行中の者又は執行猶豫或は停止中の者に對しては將來に向つて其懲罰を免除す未だ處分を受けざる者に對しても懲罰を行はず

（陸軍大臣副署）

◎官國幣社昇格

官幣中社八阪神社(京都)同日枝神社(東京)同竈山神社(和歌山縣)國幣中社熊野坐神社(和歌山縣)縣社熊野速玉神社(和歌山縣)は今回官幣大社に昇格の旨仰せ出されたり尚ほ此外國幣中社小社等も昇格仰せ出されたり（東京特電）

◎各學校の奉祝

京城の各官公私立學校にては十日午後二時半より生徒一同を講堂その他適當の場所に集め君ヶ代の唱歌あり御眞影及び勅語を奉戴せる學校にありては校長勅語を奉讀し御眞影を拜し其より御即位式の歌を唱へ三時半萬歳を奉唱し更らに校長より御即位に關する訓話ありて式を閉ぢ記念菓子の配與あり又學校によりては記念植樹等を行ひたり南山の高等女學校の如きは各教室に於て奉祝のため生徒一同署名をなし幼稚園にては記念の玩具を與へたりと

◎仁川の奉祝

瑞氣天地に溢れ秋陽暖かに射した十一月十日御大典の當日仁川に於ては各戸注連繩を張り國旗を交叉し各町の入口には奉祝の角燈高く揚げられ山手の外人邸には自國の國旗を掲揚し仁川港頭日進艦は滿艦飾を施し港內碇泊中の汽船帆船全部滿船飾を施す仁川府廳に於ては午後九時より御眞影奉安室の扉を開き一般府民に拜觀を爲さしめたれば金線燦爛たる各官よりフロックコートの紳士引きも切らす愈々十一時となるに及んで日本公園上の大神宮境內に於て奉祝祭は行はれ久水府尹を初め各官氏子總代有志其他一般市民は胸に奉祝の徽章を帶びて參列し奏樂裡に莊儼なる式が擧げられた此の日大神宮迪の宮町に於ては紅白の幔幕を兩側に張りめぐらし各戸の軒には萬國旗を縱横に張り壯觀を呈して居たかくて午後二時頃より在鄉軍人の一團在鄉軍人旗を先登に參向せるを首めとして仁川府中の各家長有志府廳員一同大神宮に集り午後三時十分には殆んど四千人に達し三時二十五分第一號砲は靜肅なる天地を破つて響き渡るや微風に搖らるゝ萬歳旛、國旗は飜々として飜り各戸共發りの家族は全部家前に整列して時を待ち軈て三時三十分第二號砲轟くと共に大神宮內に於ては一同東方を拜し久水府尹の發聲にて萬歳を三唱し各町は表通より裏町に通り迄で萬歳の聲は止まず諸官公署各諸屬の官公署各學校亦萬歳を奉唱する一方海上よりは碇泊中の日進二十一發の祝砲殷々として天地に響き各汽船の汽笛に和するに教會寺院各工場の鎔汽笛を吹鳴する等莊嚴云はん方なかりき

◎各地奉祝

分奉天在留民は奉天神社滿鐵附屬地

地方在留民は停車塲に參集祝盃を擧

▲安東

安東縣にては十日御

け各戸國旗球燈を掲げ七五三繩を張

にて滿市賑々しく盛飾せられ午前府

所にて拜賀式を行ひ午後三時三十分

日御即位式當日午前九時より各市役

後三時より驛前の廣場にて開かれた

▲長春の奉祝

長春

於ける官民聯合御大典奉祝會は午

▲全州の奉祝

全州にては十日を過ぎより全市民多住山上

奉祝御大典

朝鮮銀行仁川支店　仁川本町一丁目　電話一一番・三二三番　振替貯金京城三四〇番

十八銀行仁川支店　仁川本町二丁目　電話三一八・九一八番　振替京城二六七六番

百三十銀行仁川支店　仁川本町二丁目　電話五八・一〇一番　振替貯金京城五五番

朝鮮商業銀行仁川支店　仁川本町三丁目　電話八四・九番　振替京城一〇六二番

奉祝御大典

（イロハ順）

小倉病院　川畑病院　高木病院　久木田病院　松本病院　淺井病院　佐藤病院　菊地病院

奉祝御大典

和洋紙並に印刷業　京城永樂町二丁目　播本商店　電話一一一番

◎朧タオル　は高尚優美且つ廉價內地各都市に於て大好評

◎ちぼろ染　技師苦心の結果發明せる專賣特許の染込にて鮮麗、耐久　船の各會社を始め旅館料理店等の注文續々有之候

◎大至急　專賣特許　朧染印入タオル　年末御進物用として最好適品に候へば註文一時に多數有之候に付可成早く御用命願上候

京城本町二丁目　朧タオル一手販賣　松坂屋商店

位式當日朝來時雨ありたれども天氣穩和にして在留民は午前九時より總領事館に參集御眞影を拜し十一時より外人の參賀するもの多し三時三十…は各戸に國旗球燈…日迄祝賀演藝會 旗行列をなして祝意を表せり（奉天特電）

…良合同の奉祝式あり…田領事の發聲にて萬歲を三唱して散會す此の日市內各所には奉祝門を設…

▲清津　清津にては十日御即位式當日國旗、球燈、造花、萬燈等…

▲門司　門司にては十…分萬歲を奉唱す門司高齡者百三十名に御下賜品傳達式をなせり（門司特電）

▲元山の奉祝　元山に…盃を擧げて散會し午後四時より官民聯合及び學校生徒の旗行列あり市中大に賑ふ又府內の高齡者七名は當日府廳にて天杯を拜受せり（元山特電）

…に向ひ山內領事の發聲にて萬歲を三唱したるが式後模擬店其他の餘興あり頗る盛大を極めたり（長春特電）

…を拜して陛下の萬歲を三唱せり又各官廳にても各自同時刻に奉祝萬歲を三唱せり（全州特電）

景福宮勤政殿前に於る京城府民の萬歲奉唱（右）高齡者天杯傳達式（中）龍山練兵場に於る祝砲發射（左）

◎翁媼 感淚に咽ぶ
天杯御酒肴料傳達式

御即位式當日を以て下賜せらるべき京城府管內の高齡者內地人四十八名朝鮮人六百十四人の天杯並びに御酒肴料の傳達式は十日午後一時三十分京畿道構內宣化堂にて擧行せられたり、定刻より此の光榮ある恩典に浴すべき壽齡を重ねたる媼翁は各附添者に擁せられつゝ式場に到着待設けつゝあり、時に顏色憔悴形容枯稿せるものあれどその多くは元氣横溢矍鑠壯者を凌ぐばかりにて天恩の有難き事など語り出でゝは流石に老の身の涙脆く鼻汁を啜る音の絶えざるもさこそと肯かるゝなりき、軈て定の刻ともなれば深尾京畿道第二部長金谷府尹その他道廳の高等官以下職員著席深尾第二部長起て開式を告ぐるや第一番に九十歲の老媼村上かのは附添人及び係員に援けられて式前に進み出で恭々しく恩賜品を拜受感激の色を滿面に浮かべつゝ席に歸ればそれより各高齡者總代に傳達せるに何れも感淚に咽びつゝ拜受したるが右終つて恩賜の趣旨を訓諭し之れにて式を終れり

◎十日の京都
歡呼の聲に滿つ

昨日の雨名殘りなく霽れ暢然したる東山鮮やかに京都市中は花の如く飾られ市長は兩陛下に獻上品捧呈後午後三時より奉賀式擧行紫宸殿南庭にて大隈首相萬歲三唱の頃市中到る所歡呼の聲に滿ち煙火祝砲殷々たり遂は旗行列ありて賑ふ夜は提灯行列あり（京都特電）

◎大阪の壯觀
萬歲の聲祝砲の響

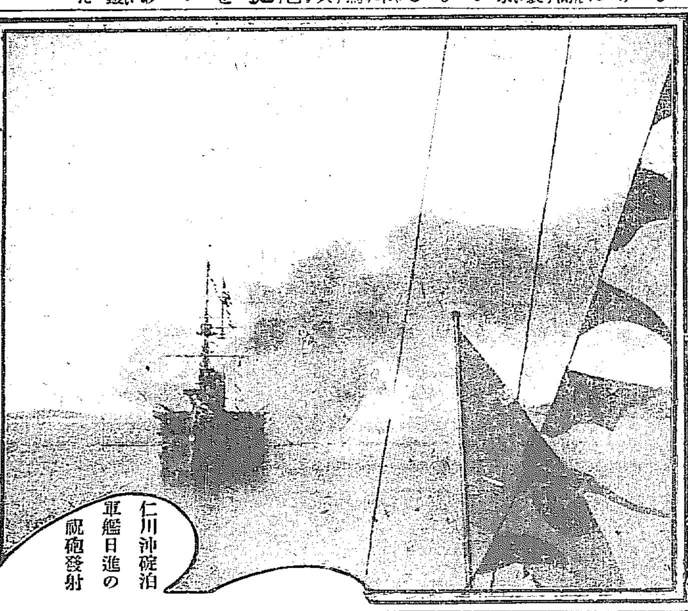
大阪市會にて賀表奉呈の決議をなし奉賀式を擧行し市中は京都に比して華やかに飾れる町あり碇泊中の六十隻の軍艦祝砲を放ち煙花を打揚げ盛んなり夜は不夜城の觀を呈するならん（大阪特電）

◎市民肅として壽き奉る
萬歲の聲天地を震撼す

十日の京城市內は各官衙銀行會社を始め大小各商店共一般に休業し町々の辻々には大國旗を交叉し『奉祝』と大文字を表はせる大提灯を吊し兩側の家並には注連繩を張り家々では定紋を染拔いた幔幕を引廻して國旗を掲揚げ軒提灯を吊し店頭の裝飾遺憾なく整ひ金色鮮やかな萬歲旛も點々見えた午後三時半ともなれば各所から起る萬歲の聲に相和して汽笛の響きと漢陽公園から打揚げる爆竹の轟音は一天晴れ渡る碧空に響き渡り市內は盛裝せる文武官胸間に閃めく勳徽章鮮やかに和洋服禮裝の人紋付禮裝の婦人男女學生等往來絡繹織るが如く鮮人町の角々に至る迄今日の大典を壽ほぎて路行く人も自ら皆奉祝の氣分眉宇に溢れていと靜肅であつた又眼覺る許りの花電車には兩翼を擴げた鳳凰に擬した大鳥の製作が施され斯くて夜に入れば共進會と共に消えてゐた南大門が彩色鮮やかに電飾され各戸の軒燈大提灯華やかに相和し晝を欺く明るみ行交ふ人の影も浮き立つ許りの殷賑である斯くて御大典當日の滿都は瑞氣靄々の歡喜に咽ぶ許りの盛況であつた

◎囚徒休業
教誨師の說教

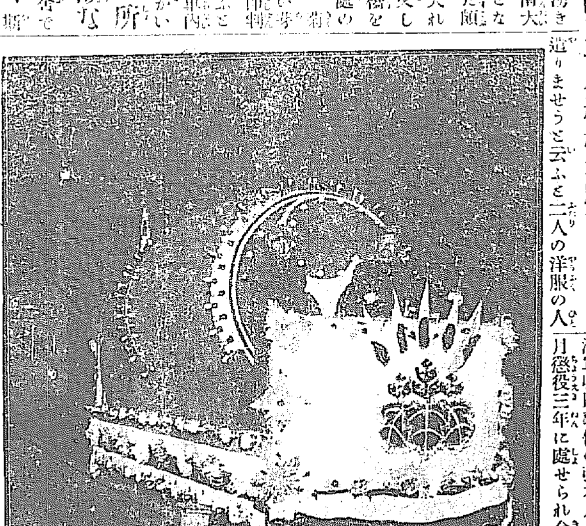
十日京城西大門監獄及び麻浦なる京城監獄にては各二千近くの囚人に對し一般勞役を休業せしめ奉拜式を擧行せり西大門監獄にては汽笛を以て合圖をなすことにし囚人を一堂に集めたる後第一汽笛にて正座せしめたるが尤も一堂に收容し兼ぬるを以て一部分の者は看守指揮の下に同じく各監房に於て第二汽笛にて正座せしむることゝし何れも東南方に向つて著座し第三汽笛にて最敬禮を行ひ第四汽笛にて復席することゝして莊重に執り行はれたり尚職員は神前典獄以下全部一堂に集合して同樣奉拜式を擧行したり尚同日は囚人を集め教誨師より御大典の眞意に就き說教ありて一同熱心に聽講したり同日は囚徒の食品も平日よりよく豚を屠殺して食膳に備へしめたり十四日及び十六日も作業を休止し教誨師より說話あるべしと因に京城監獄にても同樣休業して奉拜式を擧行したり



仁川沖碇泊軍艦日進の祝砲發射

◎列車內で萬歲奉唱
三時三十分梧柳洞驛前にて

京城の市中が『お芽出度う〳〵』と湧き返つてる十日の午後二時四十分南大門驛から仁川行二二八列車の客となる、汽車は長い貨物列車が附けた頗る不景氣な混合列車であつたが夫れでも機關車には日の丸國旗を交叉して居るのが嬉しい軈て漢江の鐵橋を渡ると向ふの鷺梁津には其處此處の萬戸屋根に日の丸國旗が飜へる、菊日和の空はあくまで暖かい『お芽出度いな』『ウム、芽出度い』と田舍の土方風の男が乘つたかと思ふと永登浦驛で直ぐ降りて了ふ、列車內は漸々寂寥である、併し窓外暖かい日光の輝く田面には所々の森蔭に秋祭の幟が飜つて有難い何んな田舍でも今日の御大禮日を祝つてゐる、斯くて列車が梧柳洞驛に近づいた頃は時計は三時卅分の萬歲時刻に迫つた萬歲を奉唱すべき仲間はと見ると傍で聖書を讀んでる郡男の龍山元町木村英次郎君と新聞を讀んでる紋付羽織の米倉町宮澤九萬象君より他に誰も居ない、二等室に行つて一緒に遣りませうと云ふと二人の洋服の人なる京城本町蓄音機商會の山下君兄弟と年增の夫人長野かすゑさんまでが遣りませうといふ、其の次の三等室に行くと又三人の婦人が居て其の中の五十格好の人久留米の岡松代といふ人に申込むと『ハイ、お天子樣の事ならば……』と早速賛成、殘り二人の美人仁川の佐々木たけ子氏と永登浦の福本菊子氏に訊くとこれも贊成、愈よ衆議一決の所へ、あな貴こ、時維れ大正四年十一月十日午後三時卅分千載一遇の時は來たれり早速若い車掌君を呼んで來て『天皇陛下萬歲!!』の音頭を頼むとこれも畏りましたと許り身構へを正す、其處で一同梧柳洞驛前のプラットホーム櫻紅葉の散りしく下に整列すると、汽車が嬉し相にブウ〳〵〳〵と汽笛を鳴らす、待つてましたと許りに車掌君が帽子を振つて『天皇陛下萬歲!!』を高唱する、お婆さんも美人も『萬歲!!々々!!々々!!』そして三分間の汽笛が休むまで一同東の方京都の空に向つて直立不動の姿勢をとれば一同の面には何れも感激の色が輝いて見える、斯くて汽笛が了ると汽車は又ボッ〳〵〳〵と駛り出した、車中では一同『お芽出度う!!〳〵!!』と又一ッ萬歲、お婆さんの曰く『結構所で十人の者がお天子樣の萬歲を申しましたのも何かの御因緣でございます、お芽出度う御座いますなあ……』『何うだ、芽出度いなあ!』『ウム芽出度い』『芽出度いなあ』『芽出度い』汽車は傾きかけた初冬の日を浴びて仁川に向て駛る（一記者）



奉祝花電車

◎恩赦出獄
收賄事件の張本人 暫時喪神失明す

海軍收賄事件の張本人として昨年五月懲役三年に處せられ金四十萬九千餘圓を追徵されたる前海軍中將松本和は小菅監獄に一年有半の苦役に服しゐたるが恩赦令の公布に依り十日午前六時獄衣のまゝ典獄の前に呼び出され恩赦出獄の申渡しに接するや彼は正氣を失し暫時失神の體なりしが家人に迎へられ七時出獄せり（東京特電）

奉祝文藝
『和歌』

佳作

位山仰ぐもたかく祝ふ哉留まる高麗の秋の野末に　京城 篠田未晩

動きなき天津日嗣の御位にのぼりまします今日の尊さ　京城 菅原 道中

大君の高きみくらにのぼります今日のよき日をことほぎ奉る　木浦 中尾千代子

仰ぎ見る天津日嗣の尊さよ心も空にすみ渡るなり　高陽 碧 踏生

大君ののぼります日をからくにの子等もつどひて祝ふぞうれし　京城 名無し草

神代より動かぬ國に生れ來て今日の御典にあふぞ嬉しき　臨川 岡本 島石

大君の天津日つぎの御位にのぼりまします今日ぞめでたき　京城 水谷 新郷

奉祝御大典

仁川海岸町二丁目
三井物產株式會社
仁川出張所
電話長六三番

收扱商品
金巾、燐寸、セメント、苛性曹達、鳳梨、石灰、木材、機械類、米穀、豆類、人造肥料、食鹽、砂糖、硝子、金物類、其他雜貨一切

仁川宮町一丁目
濟物精米所
電話八二〇番

奉祝御大典
仁川米豆取引所仲買人
三仲買店
主任 湊平一郎
電話 五二二 四三三番

奉祝御大典
仁川呉服商組合

奉祝御大典
日鮮向雜貨輸入貿易商
平壤 河野支店　安州 河野出張所
鎭南浦 河野支店　宜川 河野出張所
仁川本町四丁目
河野本店
電話二一八番、二二八番
電信略號（カ）
振替京城一二二番

奉祝御大典
仁川米豆取引所仲買人
海岸町三丁目
行實秀吉
振替口座京城三一五六番
電話長九一一番 四二二番 三〇九番
電略（エキ）又（ユ）

奉祝御大典
仁川米豆取引所仲買人
荒木助太郎
電話二八五番 二六二番

千生瓢（37）

須藤南翠作　筒井年峰畫

密計（五）

佐久間が本陣を辭した宇野忠左衛門は、己の陣所に立ち歸ると、直に雜兵夫卒の間を搜つて、著古しただんな布子と、古ぼけた袴衫とを買ひ取つた。而て己は剃刀を合せて、頭髮の鬢を挟り下げ、眉毛を尻下りに剃りつけて、武者髭を剃り落して見ると、今まで厳つめらしかつた相格は、愚直な土民と選ぶ所のないまでに一變した、忠左衛門は獨りで笑ひを含んで、布子を纏ひ、袴衫を穿つ

て、八葉笠を被つて見ると、何處にも鐵砲頭の勇士らしい面影は見えなかつた。

肩の一本の楞を上げたまゝで、大膽にも身に寸鐵を帶びず、飄然として陣營を出たが、先づ自分の陣所の哨兵に誰何せられた。

『其方どもにも、宇野が變相とは見えぬか』

『なか〳〵の事、恐れながら全くの土民おざりまする』

『夫で安堵致いた。宇野が斯やうにして忍び出た事、堅く口外致すまいぞ』

『心得まいた』

『七日が程ぢや。能う番のせへ』番卒どもに言ひ渡して其處を出たが、何れの陣でも一々に咎められたのを、全く土民に成り濟して通過した。味方の篝火が谷影に沒する頃、忠左衛門は路の傍に腰を下して、草鞋の紐を結び更へたのち、倩々行方に就いて考へた。

月はあつても樹間に隠れて、行方を照らす光りはない。忠左衛門は街道には歩みを移さないで、烏徑樵路の岨道傳ひに、山深く分け入つて、嶺より嶺を踰えるのであつたが、其翌る日は、深い〳〵荒芽山脈を踏破して、若狭白木の浦に辿り着いた。

忠左衛門は巧みに漁夫等に取り入つて、魚商人の仲間に加はつたが、又の翌日には、もう一荷の魚を擔いで、海津の浦へ商ひに出かけた。此處は丹羽長秀の本陣を据ゑた處で、魚商人といへども、越前者は一人も入れぬ程、嚴重に取締りが著いてゐる。忠左衛門は首尾よく若狭商人に成り遂せて、何事もなく陣中出入の手形を渡された。其手形を示して、湖水の濱に設けられた魚の役所へ來て、荷つて來た魚を納めるのであるが、此處は當所の陣中で所用の魚を買ひ上げるばかりでなく、今市から長濱に至る羽柴方の陣所〳〵へ、海魚を仕向ける役所であるので、其聚散の光景は、實に目を驚かすものであつた。

見ると、此内には魚の荷宰領をして、尾上に渡る者がある。忠左衛門は此の荷宰領の一人となつて、敵陣の近い尾上に渡らうと思ひ立つた。其には役人に接近して、其信用を得なければならぬ。次の日から魚荷の下へ苞苴の品を入れて持運び、人情を以て取入つたので、役人等は忠左衛門の忠作を二なき者に思つて、

『其方荷宰領をしたいといふが、湖水を踰で渡つた處で、別に面白い事もあるまい。殊には一日全費れになるで、商ひも隔日には出來ぬわ。損をしてまでも願ふ仕事ではないぞよ』と注意もしてくれた。

『一日が二日費えませうとも、一生の思ひ出、羽柴樣が陣備へが見たうおざりまする』

『當所と別に變りはないわ。無駄な事ぢや。止めやれ〳〵』

『爾う仰せられます程、猶見たうおざりまする。顏は猿のやうぢやが、智慧は文珠樣のやうぢやと、私等が浦々まで名高い羽柴樣、嘸かし立派な軍立おざりませう。何卒見られるやうにして下さりませ』と掌まで合して頼むのであつた。

『詰らんものを見たがる奴ぢや。さらば宰領申し付けやう。但し神文の入るが夫れ承知か』

『神文仕りまする。ぢやが私無筆おざりまするで、何となりお書き下さりませ』

『然らば此れに血判致せ』と、熊野の牛王に認めた、陣中の事他言せまじき旨の神文を、目の前に突き付けられたのであつた。

親切で安くて上手な　寫眞　京城寫眞館　本館南大門通　分館赤築町

刊と批

▲中央公論（十一月號）　本號中讀むべきものは瀧本日南の精神萬歳、吉野作造博士の新大學令案、長田幹彦の祇園と島原、三宅博士以下數氏の高田文相論等なるべし作者たる正宗白鳥が批評家の側に立ちて文藝の評を書くも面白し小說には『某夫人の自殺』後藤末雄と『愛宕の名殘』近松秋江の二篇あり本號は平常號としては振ひ居れり（東京本郷西片町其社）

▲東洋時報（二〇五）　特に本號には朝鮮に關する記事多し（五十錢東京麹町區内山下町一の一東洋協會）

▲講談倶樂部（一二）　定價二五錢東京本郷駒込坂下町四八講談社）

▲活動寫眞雜誌（十一月號）　定價一五錢東京赤坂區溜池町四其社

▲將棋必勝法（小野五平著）　一々圖解して名人の跡を示せり其道に心ある人は是非讀むべし（定價金五十錢東京市日本橋區北鞘町一〇大阪屋號）

▲國語百談（日下部重太郎著）　著者の學識を以て手當り次第に其語源沿革に就き說明を加へたもので或は君が代の歌、日の丸の旗、大日本、朝鮮と一に其淵源の研究仲々面白し（定價金七十錢東京市麹町區三丁目丁未出版社）

▲東西南北（桝谷永蔵著）　太陽記者たる記者の彩筆に就ては世既に定評あり本書收むる所或は日光、或は熊本、或は金華山、或は別府さり（定價金七十錢東京市日本橋區本町三丁目博文館）

▲決算報告の見方（石山賢吉氏著）　日本の決算報告が一時會社の內容知悉する能はざる底の不備あり之を如何にして見るべきかに就き著者獨特の技術を示せり、定價金圓廿十錢東京市赤坂區田町一の二八ダイヤモンド社）

▲西陣之栞　京は西陣織業の沿革と現狀を述べ附錄として組合員名簿を付す（京都市上京區今出川通大宮東入西陣織物業組合）

▲大連の奉祝

大連の全市は裝飾善美を盡し花電車早朝より西公園記念音樂堂傍にて市民の大奉祝會を開く來會者無慮一萬餘、先づ諸員京都の方に向ひて最敬禮をげ散會せり夜に入りては全市イルネーションにて灯の海と化し人出盛んにて同る盛觀を呈せり（大連特電）

工場の如き支那及び南洋方面に於て非常の好況を呈し居れるが最近に於ては依然[illegible]價下落の結果農民の需要減退したる爲各方面に於て競爭を始めたれば自然各自の損失を來し支那方面にても[illegible]日百噸の製造力ある工場を計畫し居る程にて追々に日本精糖と共に支那方面を得意としての新事業を見るべ[illegible]地の需要を増加し來りたる傾向を呈したれば▲朝鮮の如き亦追[illegible]に其勢力を發揮したれば今年末より來年始にかけ非常の發展を豫想され居る[illegible]らず未だ引續き注文に接したるに非ざるも乾燥及び街道等に於て多大の[illegible]

▲樗牛全集縮刷（第四卷）　須く現代を超越せざるべからずと叫んで死んだ著者の全集中時論及び思索の縮刷である今更に故人の感慨を偲ぶ（定價壹圓卅錢東京日本橋區本町三の八博文館）

▲落（長田幹彦）　鈴木三重吉の現代名作集廿四篇、著者の享樂沈緬的氣分を代表的に現はした本篇は既に定評がある（卅五錢東京府下代々木中山谷一八九鈴木三重吉方）

京日案內

◎普通　一回前金三十錢（五割引）　字名一行に付五錢增

◎事務見習員　齡十七より廿迄至急入用希望者本人履歷書携帶市内確實保證人二名要　〇日韓印刷株式會社　907

◎◎御旅館御下宿　一泊金五十錢より　一箇月金九圓より　京城本町三　電二四九三番　大和館　905

◎外交員男女募集　希望者は履歷書携帶來談あれ　南大門通五丁目四五　長崎屋内木村　906

◎電話讓渡　料金全納三登の電話讓渡たし希望者至急來社を乞ふ（姓名在社）　894

◎寫眞館讓渡　京城市內現狀の儘寫眞機電話及家具共至急讓渡す　○京城南大門二丁目　萬祥堂印房　882

◎店員入用　齡十五六歲但し確實の者希望者至急來談あれ　○京城本町二丁目　大阪屋號書店　884

◎店員入用　齡十三より十八位迄希望者本人來談但市内に確實保證人要す　本町二丁目　△大正たび店　885

◎番外　一回前金六十錢（無割引）　匿名一回毎に金五錢增

◎貸家　舊龍山本願寺前高麗門構瓦葺平屋建八疊以下六間同文平屋瓦葺平屋建六疊以下四間共物置風呂場付き閑靜眺望絶　京城家貸極南山麓　龍山電話五五一番　藤田組　908

◎配達人募集　市内に確實なる身元保證人を要す　京城大漢門前　盛文堂　909

◎京城附近畑貸地　果樹蔬菜好適地料低廉　京城黃金町四丁目　電話一〇一四番　內藤　910

□店員　斯業に經驗ある者廿三歲以上卅歲迄市內に入用　確實保證人要す履歷書携帶直接面談　京城本町三丁目　海產物食料品　森川商店　913

◎外事員　南安兵衛　右解傭候に付此段廣告候也　日本公債株式會社朝鮮支部　900

◎◎實用新案堅牢椅子並に防水布　監獄製火鉢格安賣出　是非共一度御來店の程願上候　洋家具專業　松浦京城出張所　黃金町二長橋通角　電話二三五九番　831

內科 婦人科　難症治療　京城南山町二丁目（喜久家の下）　電話壹貳四番　一元堂醫院　840

◎はねつぎ　うちみ　くじき等　一切の治療御依頼に應ず　明治町　柔術道場　847

恩給年金類立替　京城御成町　電話二七七七番　山口屋　855

◎恩給年金類立替　今般業務擴張の爲め左記處へ移轉す（黃金町通櫻井町へ入る西四ツ角）　長電話一一三一番　△博多屋本店　856

恩給年金類立替　京城若草町一丁目一〇六井出邸內　電話一二六三番　西村商會　857

內科 小兒科 產婦人科　本町三丁目總監部通突當り　今村醫院　電話一八三一番　867

家傳　りん病三日藥　婦人消渇にも特效　本町三丁目五十二番地　東京救濟院京城出張所　到る所に代理店あり　869

貞正なる　元山牛肉　特精肉の親王　開店披露の爲當分大安賣出仕候　京城本二元山八浪精肉店出張所　壽湯前　870

內科 產婦人科 外科 花柳病　上野醫院　○京城黃金町四丁目一〇番地　電話二九三四番　881

◎花柳病治全請合藥　りん病ばい毒にて御困りの方は一度御來店あれ　專門藥房　京城黃金町三　ドラック支店　891

奉祝御大典　會席 御料理　いそべ　京城旭町二丁目　電話千百番

八木田博士御處方　島田博士御鑑查

アナタの胃病はマーゲンで治る

舊式胃病藥で効なき人は博士のマーゲンを服せられよ。左の容態にて本劑の外適藥なし

主效　▽胃弱 ▽胸やけ ▽胃痛 ▽食すぎ ▽胸つかえ ▽消化不良 ▽食進まず ▽飲すぎ等

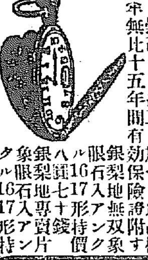
十錢 二十錢 三十錢 五十錢 一圓

本舖　大阪市上本町　田畑保藥房　振替口座大阪五〇七八　（全國有名藥店にあり）

特約店　南大門通　新井藥房

御大典紀念時計

本品は純日本式にして最新式薄形特質優良なる地金を選擇し御即位を記念するに足る崇高なる有名なる彫刻師の手に依り加工を加へし適品なり　機械堅牢無比十五年間有效保險附


御即位紀念價片　七圓九十錢　象眼石入アンクル　○純ニッケル16 17形　銀梨地無双象眼石入アンクル16 17形特價八圓七十錢　銀梨地專賣片象眼石入アンクル16 17形特價

○當商會が御大典奉祝記念として三千個限り發賣す　○御注意　本月廿日迄御注文の御方樣へ金指輪一個大典記念形御申越次第引替贈呈す　○郵送費は廿二錢前金に適意なき時は他品と交換又は返金　○商品カタログ御希望の御方進呈す

横濱市馬車道住吉町四丁目　合資會社　領木時計店　電話二五九二

上品で氣の利いた　美顏ユーマー

2575.266　紅葉影

□コンナ珍しいものが□　□何うして出來たか？□

▲容色の善惡は　生れつきで爲樣の無いものか、人はホントウに美しくなれるか何うかこいふ事は、婦人は固より男子方の間にも疑問の一つこなつて居りますが、例へば出しの

▲女中さんでも　都へ出て長く奉公してゐる中には次第〳〵に見違へる程綺麗になる所を見ますこ、誰でも手入の工合で美しくなれる筈で御在ます。併し其座手入をした所で然う

▲俄かに綺麗に　なるこいふ譯には參りません。けれども慾には一飛に美しく成度いのが人情で、何か、顏へ附けるこ直ぐお化粧でもしたやうに美しくなるものは無いだらうかこ

▲自然の情から　要求なさる、其要求を如何にもして充し度いものこ、先年來熱心に研究を始めたのが桃谷研究試驗部顧問二博士の下の專任三藥學士で先づ歐米の有名な化粧品を

▲分析研究して　最新の學理こ實驗を盡して完成したのが此美顏ユーマーです。此品は、朝使へば一日中顏色を活々こ美しく保つこいふ特殊の作用が在ますから、お望み通り彼の

▲一飛に美しく　見せ度いこいふ方のお化粧料こして此上も無い適當品で、倚續けて使へば顏の地を美しくする力が強く、現に各宮家御用佛國女流美顏術大家マリールウヰズ嬢は

▲宮家を始め奉り　東京の華族方高官方の御家庭に召された際、この美顏ユーマーを美顏術に應用なさつて、理想に適つた立派な效果のあることを實驗せられて非常に喜ばれ、是は

▲全く珍しい品　であるこて引續き用ひて居られますが、是は此品に含んでゐる新發見の植物性の粘液美容素の作用で朝洗面後に少しお顏に附け輕く摩つておけば、一日中活々こ

▲顏色晴やかに　男子のかくし化粧にも適し、腐の荒を防ぎ肌理を美くする力が強いからで、又白粉の溶水や白粉下や白粉おさへ等こしても非常に良く幾段も化粧美を增します

▲文明的御家庭　には美顏ユーマーは是非こも無ければならぬものこ成つて居ります定價は一瓶二十錢、試して決して御損の無い事を斷言致ます。信用ある化粧品店に御在ます。

實用卷ゲートル　デア印　製造販賣　大阪東區南久太郎町四丁目　（見本帖進呈）　杉山商店　振替大阪一九四一七

新刊書御案內

書名	著者	定價
鑛產工業分析法	船・勝三	二五〇
實用數學	寶田忠保	七五
漢和文海字典	水島愼次郎	一二〇
續和漢名詩鈔	結城蓄堂	一五〇
初等作詩法	末川竹暎	一〇〇
儀式書翰文範	大町桂月	一五〇
季寄新辭典	服部耕石	三五
立命安心逆順論	中野天心	九五
新愛國論	鈴木正吾	八五
苦樂新眞の生活	池田極外	六五
墜落の日迄	吊野木三	六〇
ファウスト物語	新渡戸稻造	一〇〇
新南島大觀	南洋研究會	一〇〇
忠直卿	牛非耕水	九五
東洋思潮講話	手塚柴川	一〇〇
藝術家と藝術運動	林田龜之輔	一二〇
古美術行脚	黒川潤心	一〇〇
齋き明文より新らしき明文へ	中津臨川	八五
ゼエレン、キエルケゴオル	和辻哲郎	二五〇
改造の試み	田中王堂	一二〇
本然生活	加藤一夫	一〇〇
修養訓	大町桂月	一〇〇
青淵修養百話	澁澤榮一	三〇〇

大阪屋號書店　京城本町　電話二〇八　振替京城二五七二

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸大阪行
秀吉丸　十一月八日　日後四時出帆
君が代丸　十一月十日　日後四時出帆
神代丸　十一月　日　日後四時出帆
大有丸　十一月　日　日後四時出帆
第二太湖丸　十一月　日　日後五時出帆
○群山、大阪行　上海丸　十一月　日　日後四時出帆
仁川海岸通二丁目　電話五十九番　高杉回漕部

大阪商船仁川出帆

○中國四國沿岸各港行一割引を以て連絡切符發賣仕候
○外航所屬航路（遠洋航路を除く）に限り往復御乘船の時は五分引を以て連絡切符發賣仕候
×○群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行　漢城丸 十一月 日　溫州丸 十一月 日　油頭丸 十一月十一日　午後五時出帆
××○木浦、釜山、長崎行（▲は鹿原島の浦に寄港）　安東丸 十一月 日　▲天智丸 十一月十八日　午後二時出帆
××○鎮南浦、大連行　安東丸 十一月 日　天智丸 十一月十三日　午後二時出帆
○○木浦、神戸大阪行　薩摩丸 十一月 日　午後五時出帆
△△○群山、釜山、横濱行　千珠丸 十一月廿六日　チヨイサン丸 十一月十四日　午後四時出帆
△△○大連直行　千珠丸 十一月 日　チヨイサン丸 十一月廿日　正午出帆
○淸津、浦潮行（元山出帆）（▲は城津西湖津に寄港浦汐不寄港）　地久丸 十一月 日　神宮丸 十一月十八日　▲城津丸 十一月 日　午後三時出帆
○上海、基隆、打狗行（大連出帆）　新高丸 十一月十六日　安平丸 十一月 日　午前十時出帆
御注意　○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道會社との船車連絡切符發賣仕候　○御乘船客は本船出帆前約一時間前無賃送迎可仕候　○×印は一等客御斷り△印は船客御斷り
仁川切符發賣所　大阪商船會社仁川支店　電話二三番二〇番五五〇番
京城切符發賣所　內國通運會社支店　電話七八〇番

日本郵船仁川出帆

○三河丸　大連太沽牛莊行　十一月　日午前六時出帆
○大連、太沽行　高砂丸 十一月廿三日 正午出帆　相模丸 十一月三十日 正午出帆
仁川海岸町一丁目　電話十二番　堀回漕部

朝鮮郵船出帆

本社　電話長一九五二番三三番
鐵道及北外船と商客運帶聯運の便あり、詳細は支店、出張所、代理店、商客取扱店に御照會相成度
京城南大門驛前　京城商客取次店　松原運送店（電話長一二七〇）
全羅丸 十一月廿四日／京畿丸 十一月十日／近海丸 十一月十八日／成鏡丸 十一月 日　釜山發（門司より釜山各港寄港廻間ごと）
穩城丸 十一月 日／昌平丸 十一月十三日／鏡城丸 十一月十五日　元山發（元山より各港經由雄基行）
能登丸 十一月十日　元山發
忠淸丸 十一月十七日　元山發（城津、淸津、浦鹽行復航釜山經由門司）
永興丸 毎月廿八回　元山發（又は長崎延長　北久味五列浦行）
嘉島丸 十一月十三日　釜山發（甘浦、九龍浦、浦項各港寄港鬱陵島行）
江陵丸／義陽丸 毎日　釜山（浦項）發（長生浦、方魚津寄港）
三浦丸 十一月八日　釜山發（長承浦、麗水、巨文島、濟州島各港行）
海州丸／統營丸／巨濟丸／慶寶丸 毎日　釜山發（各港經由麗水行（三日目一回木浦行））
順天丸 三日目毎　木浦發（各港經由麗水行麗水より釜山行に接續）
慶興丸 十一月十五日　木浦發（各港經由濟州島行西廻）
公州丸 十一月十二日　木浦發（南多島海列島行（月三回））
公州丸 十一月十日　木浦發（各港經由濟州島行東廻）
宗信丸 十一月十二日　仁川發（海州龍各港經由、鎮南浦行）
江原丸 十一月 日　仁川發（芝罘、大連、青島行）
飛水丸 十一月 日／晋州丸 十一月十二日　仁川發（各港經由木浦行）
全州丸／南陽丸 毎日午前　仁川發（江華島、桐島、海州行）
平安丸 十一月十六日 群山發／十一月十三日 若松發（往航 大黒山、木浦、門司、若松行　復航 門司、木浦、群山行）

阿波共同汽船仁川出帆

第一共同丸　芝罘、大連行　十一月十一日後二時入　十一月十四日前九時出（大連にて特別連絡の便あり、同額運賃にて通し輸送御取扱可仕候）
第一鶴丸　城津、淸津、浦鹽行（元山出帆）　十一月 日　月 日　後九時出港
第三共同丸　西湖津沿岸各港を經て雄基行（元山出帆）　十一月 日　月 日　前八時出帆
阿波國共同汽船株式會社
仁川代理店　本町一丁目（電話一〇八番）　山下回漕部
元山代理店　群日町（電話二四四七番）　田口回漕部
京城取次店　南大門通（電話二一六八、二〇一七）　河村運送店

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行　小倉丸　十一月十六日後五時出帆
○元山城津浦鹽行　小倉丸　十一月二日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行　立神丸　十一月九日後五時出帆
○元山、淸津、浦鹽行　立神丸　十一月十八日後十時出帆
○元山、西湖津、新浦、城津、淸津行　第三琴平丸　十一月十二日後九時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行　第三琴平丸　十一月廿三日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行　天眞丸　毎月二日九日十六日廿一日廿六日　午後十時出帆
釜山本町　取扱店　大池回漕部